

別紙様式 2 (高)

令和 5 年度 県立石岡第一高等学校自己評価表 (全日制)

目指す 学校像	(1) 創立 110 年を超える歴史と伝統を受け継ぎ、学科の特色を生かし、地域における教育の中核として「魅力ある学校」「信頼される学校」となる。 (2) 生徒一人一人が個性を伸ばし、将来の夢を実現するための知識・技能を身に付け、自信と誇りを持てる学校となる。 (3) あらゆる教育活動の場面で、一人一人が輝く活力ある学校となる。			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
学習指導の充実と部活動の振興を目指して教育活動を実践し、生徒一人ひとりを大切にする指導に努めた。 令和 5 年度入試では、国公立大に現役で 25 名（昨年度 27 名）が合格した。県内の国公立大学では筑波大 1 名、茨城大 13 名、県立医療大 2 名が現役で合格。また、立教大、法政大、東京農業大などの私立大学にも合格した。来年度は 30 名以上の合格を目指しつつ、難関大学合格者数アップを目指す。就職では、公務員 4 名、地元企業等に 32 名が合格し、本年度も学校推薦による内定率 100%を達成した。 部活動においては、ウェイトリフティング部と弓道部が全国大会出場、バドミントン部が関東大会出場、野球部がベスト 16 進出を果たした。また、文化部においても県総合文化祭をはじめ多くの催しへ参加した。本年度も、多くの部活動が大会上位入賞の実力があり、本県の代表となる期待が持てる。 農業学科においては、専門教育の充実に努め、令和 4 年度は農業クラブの関東大会（茨城大会）の運営役員を勤める他、地域貢献活動も積極的に行っている。 今後も、生徒一人ひとりが人間性と学力を向上させ、充実した高校生活を送り、進路希望を実現できるよう、さらに指導の充実に努めることが重要である。	全 学 科	学力向上	(1) 授業時間数と授業時間の確保に努める。 (2) 授業方法を改善し、「主体的・対話的で深い学び」を推進する。 (3) 自学自習・家庭学習習慣の定着を図る。 (4) 「生活・学習プランニング力」の向上を図る。 (5) 総合的な探究の時間の展開を研究し、改善する。特別支援教育を推進する。	B
		進路希望の実現	(1) 組織的・計画的指導を推進し、希望する進路の実現を目指す。 (2) 個別面談を充実させ、進路希望を明確にする。 (3) 課外授業等の計画的実施と主体的な学習活動を促進する。 (4) 地域活動への参加を促し、社会的実践力を養成する。 (5) キャリアデザイン力を育成し、生徒の意欲・能力を高める。	B
		基本的生活習慣の確立と規範意識の定着	(1) 生徒に社会性を意識させ、挨拶や身だしなみの指導に努める。 (2) いじめや体罰のない「安心・安全な学校づくり」に努める。 (3) 教職員間の情報共有を図り、家庭や関係機関との協力・連携に努める。	B
		特別活動の充実	(1) 生徒の企画・運営力を高め、主体的な活動を促進する。 (2) 学校行事での生徒の積極的な取組を促進する。 (3) 部活動の充実に努め、生徒の向上心や達成感を促進する。	A
		専門教育の充実と地域との連携	(1) 幅広いニーズに応えられる魅力ある学習内容を取り入れる。 (2) 農業クラブやプロジェクト学習を充実させ、大会入賞者や上級資格合格者を増やす。 (3) 開放講座や収穫祭等を通して、地域と連携した専門教育を推進する。	A
		外部への情報発信	(1) HP や新聞等のメディアを活用し、保護者や地域に積極的に情報発信する。 (2) 学校説明会や中学校訪問の実施により、中学生対象の広報活動を推進する。 (3) 地域に開かれた学校づくりを推進する。	A
		教員の服務規律の遵守と働き方改革の推進	(1) 日頃のコミュニケーション等を通して教職員の良好な関係を作り、学校諸課題に「チーム」として対応する組織づくりをさらに進める。 (2) I C T の活用により、職員会議、成績処理、教材準備の効率化を図る。 (3) コンプライアンス意識を持って行動する。 (4) PDCA サイクルによる評価・改善を行い、働きやすい職場作りに努め、働き方改革を推進する。	A

		授業改善の推進	(1) 生徒の学び（授業観・学習観）とともに教師自身の学び（研修観）を転換し、個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。 (2) 教師一人一人が、生徒による授業評価（「中間評価」等）をもとに日々適切に授業改善をする。 (3) 学校の目標として、「生徒による授業評価（「最終評価」）」の各項目における「学校全体の評価平均」を「3.0」以上とする。	B	
三つの方針		具体的目標		評価	次年度(学期)への主な課題
三つの方針 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(1) 進学に向けた組織的・計画的な指導を充実させ、生徒の学習意欲とキャリアデザイン力を育成する。 (2) 授業の内容や方法を工夫・改善するとともに、生徒の主体的な学習習慣の定着と確実な学力の向上を図る。 (3) 生徒の規範意識を高める指導と心の教育を充実させ、自己指導力や互いを尊重する態度を育成し、人間性の向上を図る。		A	・「主体的対話的で深い学び」を意識し「学びに向かう力」が定着する授業改善を推進する必要がある。 ・大学進学実績を質量ともに高めていく必要がある。 ・公共の場でのマナーを向上させる必要がある。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(1) 地域教育力を活用し、多様な学びを取り入れた教育課程の編成・実施 (2) 生徒の興味関心を最大限引き出し、生徒が主体的に活動する授業の実践 (3) 「総合的な探究の時間」を充実させ、大学等との連携や教科間連携をした探究型の学習の展開 (4) 豊富な地域人材を活用したキャリア教育の展開 (5) 進学から就職まで多様な進路に柔軟に対応する指導の充実 (6) 学校行事や課外活動、ボランティア活動等のさまざまな体験を通じて、主体性と協働性を養う学習機会の充実		A	A ・課題解決型学習やタブレットを活用した授業展開をより推進する必要がある。 ・教科等横断的総合的な学習をより推進する必要がある。 ・農業系の実習の充実や資格取得をより推進する必要がある。
	「入学者受け入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(1) 学習意欲があり、基本的な生活習慣や規範意識が身についている生徒 (2) 他人の考えを尊重し、人の意見を素直に聞くことができる生徒 (3) 生徒会活動や部活動、地域活動等に対して、積極的のチャレンジできる生徒 (4) 自分の考えを様々な場面で発表し、表現する意欲を持っている生徒 (5) 身につけた専門性を生かし、農業や産業の担い手として、地域を支えるリーダーとして社会に貢献しようとする気概を持った生徒		B	・入学希望者や中学校関係者に対し、学校が期待する生徒像をわかりやすく明示していく必要がある。 ・園芸科、造園科の魅力や進路決定状況を発信し、入学希望者の増加を図る。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への課題
国 語	基礎的な言語能力の定着を図り、言語感覚を磨く。	H R や授業時間を利用して、漢字・語句・一般常識等の小テストを実施する。	A	・主体的、対話的な授業展開のためのテーマ設定や教材の準備について情報を共有するとともに、工夫を重ねる。 ・ICT を効果的に活用した授業について研究を進める。 ・多様な進路に対応できるよう、基礎学力の定着及び発展的知識の育成を図る。
		積極的に辞書や文法書・副教材を活用する授業を行う。	A	
		授業において小論文練習の時間を意図的に作り、小論文模試を実施して、自己表現力を育成する。	B	
		スピーチやプレゼンテーション、意見文作成等の言語活動を授業に取り入れるとともに、生徒による授業評価等をもとに日々授業改善に努める。	B	
	思考力を伸ばし、想像力を養い、心情を豊かにする。	表現力を養うために、主体的で対話的な学びを取り入れた授業を積極的に行う。	B	
	情報化・国際化時代に対応できる力を培う。	副教材や視聴覚教材等を活用して、古典の世界に視覚的・聴覚的に親しませる。	A	
		学校図書館の資料やインターネットを通して得た情報を随時取り入れて授業を展開する。	B	
	進路希望を実現するための国語力を涵養する。	学科別・コース別に教材内容を吟味し、指導方法を工夫する。	A	
		3年間を見通して、順次難度を高めた問題演習を行い、実力養成に努める。	A	
地 歴 公 民	歴史的・地理的事象に関心を持ち、国際社会の変化に対応できる知識を身に付ける。	歴史的事象を複眼的に考察し、因果関係を考えさせる。	A	・社会参加の方法を考えさせるために、現代的な諸課題に関する授業内容を積極的に取り入れる。 ・「主体的対話的で深い学び」を実践できるように、資料や教材の準備・工夫及びICTの活用の推進を図る。 ・共通テストに対応できるように高い思考力、判断力、表現力を身につけさせる。
		地図や資料を活用し、地理的特徴を把握させる。	A	
		現代の国際社会における政治経済の仕組みを理解させる。	A	
	現代社会の諸問題を考察し、主権者として主体的に、よりよい生き方を追求する。	ICTを活用して自ら調べ、多面的・多角的に考察させる。	A	
		社会参加の方法を考えさせ、青年の生き方を追求させる。	B	
		言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を問う問題を出題する。	A	
	言語活動の充実を図り、表現する能力を身に付ける。	生徒の学びとともに教師自身の学びを転換し「主体的・対話的で深い学び」を実現する。	B	
		共通テストを意識して、授業・課外等を充実させ、進路実現できるように指導する。	A	
数 学	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、表現・処理する技能を身につける。 数学的な表現を用いて事象を簡潔・的確に表現する力を養う。 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。	週末課題や長期休業中の課題、生徒への声掛けを通して家庭学習の時間が増えるよう促す。	A	・言語活動の充実を図り、「主体的・対話的な深い学び」の実現を目指していきたい。 ・ICTを活用した授業構成について、考察が必要である。 ・今後も生徒の進路実現のために、基礎学力定着を図る。
		小テストや授業での発表を通して自ら考え根拠を持って自分の考えを表現する経験を増やす。	A	
		模擬試験の分析や、教科内での情報交換、教材研究を行い、指導に活かす。	A	
		平日の課外や、長期休業中の課外、副教材の活用、模擬試験への対策を通して、大学入試に対応できる学力を伸ばす。	B	
		主体的・対話的な学習活動を通して、論理的に思考し、判断することができる能力を伸ばす。また、生徒による授業評価等をもとに日々授業改善に努める。	B	

		生徒の希望進路や理解度に合わせて授業を行い、基礎学力向上をはかる。	A		
		チャイム着席や、休み時間に教材を机の上に出しておく等、望ましい態度を育む。	A		
理 科	基礎的・基本的な知識や技能を身につける。	補助教材に計画的に取り組ませる。	A	B	- 科学的思考力育成のために、言語活動やペアワークといった機会を増やす。 - 新課程科目について、より一層の教材工夫を図る。
		定期的に小テストを行う。	B		
		生徒による授業評価をもとに日々授業改善に努める。	B		
	科学的に探究する力を養う。	実験や観察等を取り入れた授業を展開する。	A		
	科学的思考力・判断力・表現力等を身につける。	日常生活と関連した課題を用いて、ペアワークやグループ活動等、言語活動の充実に焦点を当てた活動を行う。	B		
保 健 体 育	運動の合理的な実践を通して生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てる。また、集団活動のなかで、ルールを守ることの大切さ、生徒間で協力し合いながら主体的に活動することができる態度を育てる。	【保健】個人及び社会生活における健康、安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。	B	A	- 生徒の主体性を育むための活動や話し合い活動の機会を増やしていく。 - 生徒が主体的に体力の向上を行えるような課題を設定し、運動の喜びを感じられる授業内容にしていく。
		【体育】各種の運動の合理的な実践を通じて運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、体力の向上、公正、協力、責任などの態度を育てる。また、授業におけるルールを遵守させ、練習や試合などを話し合いながら企画・運営する活動を促進する。	A		
芸 術	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。	様々な活動を数多く体験することにとどまらず、生徒一人一人が内発的な動機に基づきながら、表現活動や鑑賞活動に主体的に関わることができるようにする。	A	A	- 主体的に活動できる機会を増やし、豊かな情操を養う。 - 進化する芸術の情報を常に捉えて、教材に取り入れる工夫をする。
		創作活動の中で個々の芸術に対するとらえ方や考え方を深化させ、新たな価値を見いださせたりなどし、創造的な能力を高める。	B		
		我が国及び諸外国の芸術文化に対する理解を深め、尊重する態度を育成する。	A		
英 語	語彙や文法など、基礎的・基本的な知識や技能を身に付ける。	単語テストや例文の暗唱テストなどの小テストを定期的に行い、基礎学力の向上を図る。	A	B	「主体的対話的で深い学び」を実践できるよう、ペアワークやグループワークを積極的に取り入れる。 - 教材や教授法を工夫し、4技能の向上を目指した授業を実践する。 - 多様な進路に対応できる基礎的知識および発展的知識の育成を図る。
		予習・復習の習慣の定着のため、ノートを取り方の指導・定期的に点検する。	A		
		英文法の効果的な理解のために、文法を体系的にまとめた副教材等を使用し、問題演習も十分に行い、進路に対応できる学力を育成する。	A		
		英語検定準2級～2級の取得を推奨し、英作文やリスニング指導の充実を図る。	B		
	聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを伝える能力を養う。	教科書以外にも、総合問題集・長文問題集・新テストに対応した教材を使用し、速く、正確な読解力の育成に努める。	A		
		リスニング教材を3年間通して使用し、継続的にまとまった英文を聞く力を伸ばす指導をする。	A		
		授業中にクラスルームイングリッシュを積極的に使い、インタラクティブな授業展開をする。	B		
		スピーチやレポート作成などを随時行い、能動的に英語を使用する場面を増やす。	B		
	積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	ペアワークやグループワークを積極的に取り入れる。	B		
		ALT との交流を多くし、進んでコミュニケーションをとろうとする態度を育成する。	A		

家 庭	家庭や地域における生活の充実・向上を図る態度を育てる。	現代社会の現状や課題を理解し、調べ学習や各々の考え方を共有するうえで ICT を効果的に活用し、生活を営む確かな考え方の定着や多様な考え方を受け入れる態度の育成に努める。	A	B	・地域社会の一員としての自覚を促す課題を提示する機会を増やす。また、課題解決型の課題になるようなパフォーマンス課題を提示できるようにする。 ・実験・実習を衣生活・食生活分野以外にも取り入れる。
	基礎的な知識や技術を身につける。	体験学習および実験・実習を通し、基本的な知識や技術と科学的に探求する方法を身に付け、自立に向けて家庭生活で応用できる力を育成する。	B		
	自己実現を志向して主体的に生活を創る能力を養う。	日々の生活の中での課題を見つけ、解決する能力を育成するとともに、家庭及び地域社会の一員としての役割を果たすための資質を育てる。	B		
情 報	情報化社会に主体的に対応できる態度を身に付ける。	プログラミングや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能を習得する。	A	B	・大学入学共通テスト「情報」に向けて指導していく。
		情報活用の工夫をし、情報モラルを踏まえた適切な判断ができるようにする。	B		
教 務	円滑な教育活動を推進する。	日々の授業や様々な学校行事を円滑かつ効果的に運営するために、他分掌や各学年との連携を深める。	A	A	・校内での公開授業期間を設け、教員間で授業方法のノウハウについて情報共有し、授業改善のためのヒントを得る機会を増やす。 ・ICT 教育やグループワークなどによる授業を取り入れ、多様な子どもたちへの個別最適な学び、協同的な学びの充実を目指す。 ・定期テストや小テストにデジタル採点を導入することで、採点業務の効率化を推進する。
		時間割の急な変更にも対応し、授業時間を確保する。	A		
		授業方法の改善や研修を行う。	B		
	授業方法の改善や研修を行う。	他校の取り組みを紹介し、研修会等への参加を促す。	B		
		校内での公開授業期間を設け、先生方の研修の場とする。	B		
		諸記録簿を的確に整理保管し、事務の適正化を図る。	A		
	適切な教育課程を編成し、生徒の向上を図る。	諸記録簿の点検整理を円滑に進め、適切に管理する。	A		
		生徒の多様な進路に対応できる教育課程の編成に努める。	A		
		新学習指導要領の実施に向けた研修を行い、学習評価の内規を整える。	B		
		学習指導法の相互改善に資するような研修の機会を設ける。	B		
	総合的な探究の時間の展開を研究、改善する。	年間計画を作成し、実施状況を確認し、学年や進路指導部と連携しながら工夫や改善を図る。	B		
		道徳教育の公開授業を行い、また他校の研究授業に参加し、研修に努める。	B		
		家庭学習習慣の定着を図る。	B		
	ホームページを充実させる。	成績不振者に対しての指導計画をとりまとめ、実行し、家庭学習習慣の定着を図る。	B		
		適切に個人情報に配慮したHPをアップロードする。また、即時的に最新情報を掲載する体制を整える。	A		
		中学校や地域に向けて情報を発信する。	A		
	P C や校内ネットワークの充実を図る。	ポスターや学校案内を作成し、県内各所に配布する。	A		
		学校説明会を企画・開催し、本校の魅力を伝える。	A		
		中学校訪問を積極的に行い、広報に努める。	A		
	図書館利用の促進を図る。	教職員のノートPCについて5年間のリース契約をし、安定的な運用、不具合への迅速な対応に努める。	A		
		日々、ネットワークの状況を監視しながら安定的な運用に努め、不具合等に対して迅速に対処する。	A		
	図書館利用の促進を図る。	館内蔵書を充実させる。	A		

		「図書館だより」などを通して、生徒の読書に対する関心を高める。	B		
		館内の装飾を工夫し、明るく利用しやすい雰囲気作りを目指す。	B		
		館内でのマナーの指導を徹底する。	A		
	委員会活動の活性化を図る。	図書委員全員に係を振り分け、役割分担を明確にして自覚を促す。	A		
		校内・校外での図書委員対象の研修会に積極的に参加させる。	A		
生徒指導	生徒指導方針の共通理解を図り、生徒指導基準を明確化する。	生徒指導部から情報を発信し、生徒指導上の現状と問題点を迅速に周知させる。	B	A	生徒指導上の問題行動発生時の対応について、教職員間の情報共有が不十分であったため、会議に支障をきたすことがあった。適切な指導体系を構築する必要がある。
		全教職員が生徒指導に取り組む体制を構築するとともに、生徒への連絡・周知を徹底させ、統一かつ効果的な指導を実現する。	B		
	規範意識を醸成する。 対話指導の推進を図る。 基本的生活習慣を確立する。 校則の見直しを図る。	登校指導、授業前服装指導にとどまらず、学校生活全体においても随時指導するよう心がけ、生徒の規範意識を向上させるとともに問題行動の未然防止に努める。	A		
		身だしなみや化粧・アクセサリ等の使用など、容姿指導を重点目標とする。	A		
		基本的生活習慣の確立のため、家庭の協力も得て継続して指導する。	B		
		教職員、生徒、保護者の意見なども取り入れながら定期的に校則について見直しを図る。	A		
進路指導	進路意識の高揚を図る。	大学模擬授業や職業ガイダンスなどの機会をとおして、様々な分野への関心を高める。	B	B	・就職指導における組織的な指導体制の確立をめざす。 ・各学年と連携し、新課程入試への対応と国公立大学合格30名以上という目標に向かい取り組んでいく。
		進路情報交換会、学力検討会などを通して、各学年間の進路情報の共有を図る。	A		
	生徒の実態把握と学力向上を図る。	外部模擬試験を実施し、受験結果をファインシステム等で分析提供し、学力向上及び進路指導に生かす。	A		
		多様化している生徒の進路に対応するため学年との連携を密にする。	B		
	適切な進路情報の提供を行う。	進路情報を多種多様な資料から精選し、各学年へ積極的に提供する。	B		
		進路指導室内の進路資料の充実を図り、生徒・職員共に利用しやすい環境にする。	B		
特別活動	集団や社会の形成者としての自主的・自立的な活動を支援する。	生徒同士が協力して生徒会や常置委員会を運営し、学校生活の充実と向上のために諸問題の解決する力を身に付けられるようにする。	B	B	新型コロナウイルス感染の第5類以降を踏まえ新しいスタイルでの考えの中で学校行事の進め方の工夫をしていく 新しい部活動のあり方を考え工夫する。 ・学校行事やHR活動等に対してさらに主体的に取り組めるように工夫する
		ホームルームにける話し合い・合意形成・役割分担を通して、人間としての在り方生き方についての理解を深められるようにする。	B		
		クラスマッチなどの学校行事を通して、所属意識や連帯感を養う。	A		
	「開かれた学校づくり」を目指す。	「収穫祭」を通して地域との交流を図る。	B		
		生徒会の広報活動やボランティア活動などを通して情報発信を行う。	A		
	部活動のさらなる活発化を図る。	各部活動をPRし部員数の増加を図る。（部活動紹介・壮行会等・活動実績横断幕）	B		
		各部で、学校内・学校周辺の清掃活動等を定期的に行う。	B		
	学校行事を通して、社会的・職業的自立に向けての資質・能力を身に付けさせる。	学ぶことと自己の将来とのつながりを見通せるように、学校行事や家庭及び地域における学習活動を工夫する。	B		
		活動を記録し蓄積することにより、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行う。	B		
	キャリアパスポートを活用して様々な学びを自己のキャリア形成に活かす。	生徒の成長を促す対話的な支援により、自らの学習状況やキャリア形成を見通した自己評価を適切に行わせる。	B		

	成に生かそうとする態度の養成を図る。				
保 健 厚生	健康管理の意識を向上させる。	定期健康診断の意義を生徒に理解させる。	B	B	・『エピペン』の研修を、保健厚生部主催の研修会で実施する方向で考えていきたい。 ・AED講習や防災避難訓練など、消防署との連携をさらに深めていきたい。
		毎月1回保健だより等で最新の健康情報を提供し、生徒の自己管理能力を育成する。	B		
	防災に関する知識を習得させる。	防災避難訓練を実施し、災害時に適切な行動を選択できる能力を育成する。	B		
	教育相談体制を充実させる。	スクールカウンセラーの活用を強化し、専門的な立場からの助言をもらい生徒ひとりひとりの学校生活を支援する。	B		
	生活環境を整備する。	生活環境の整備に努め、より快適な生活ができるようにする。	B		
		ストーブの安全管理と適切な使用に努める。	B		
渉外	P T Aの生徒指導委員会活動を活発に行う。	生徒が下校する際の安全確保に努めるとともに、服装などの身だしなみを整えられるように、保護者側の視点で生徒理解を深めるための定期的な巡視を行う。	B	B	・P T A行事やP T A各種委員会について、役員・保護者の負担軽減の観点から、開催時期・回数の見直しや、活動内容の工夫をするなど、よりよいP T A活動ができるように検討を進める。
		石岡の祭礼などに参加している生徒の健全な育成のために巡視を行う。	A		
	P T Aの広報委員会活動を活発に行う。	生徒の学校生活の様子や学校行事など、全教育活動の取り組み状況を幅広く取材し、広報誌にまとめ保護者へ配布する。	B		
		家庭、地域との連携を図るためP T A広報誌「山王」を年1回発行し、実りある広報活動を行う。	A		
	P T Aの学年委員会活動を活発に行う。	保護者から質問・要望を受け、十分に保護者の協力を得ながら円滑な学年委員会活動を行う。	B		
		各学年の生徒の実態に合わせ、特色ある活動を行い、人間性豊かな生徒の育成にあたる。	B		
	その他のP T A活動を活発に行う。	全国高P連、関東高P連、県高P連、県南高P連の研修会などの活動に参加し、本校P T A活動の発展と向上に努める。	B		
事務	茨城県予算の適正な執行を図る。	公金を扱っているという認識のもと、適正な事務処理を行うことは勿論コスト意識に基づき早期かつ効果的な予算執行を心がける。	B	B	・働き方改革を推進していくために、より効率的な業務処理を進めていく。そのための方策を事務室内で話し合い講じていく。
	施設設備の適正な管理を実施する。	事務職員と技術職員及び農場職員が連携を図り、施設等の修理箇所への対応を早期に実施する。また、学校施設設備による生徒事故が発生しないよう、引き続き職員全員で校内巡視等を実施していく。	B		
	事務室の業務効率化を図る。	日々の業務の課題や問題点を洗い出し、より効率的に進める方法を検討し時間的なコスト削減を推進していく。	C		
	学力の向上を図る。	教材の工夫やICTの活用により、授業へ興味を持たせ学習内容の理解を図る。	B		・基礎学力の更なる定着を図り、農業学習への興味・関心・意欲を高めるため可能な限り講演会や校外学習を増やしたい。 ・数年ぶりに農業クラブ県大会プロジェクト発表会に
		実験実習の効果的なフィードバックを授業で行い、学習内容の定着を図る。	B		
		外部試験を活用して学力を把握し、習熟度に合わせた指導を行う。	B		
		授業や実習にグループワークやレポート等を積極的に取り入れ、コミュニケーション力・問題解決力・表現力を育成を図る。	B		
	農業に関する興味・関心を高め、農業の意義や役割を理解させる	様々な場面で農業と環境の関わりを意識させ、「食」、「農」、「命」の大切さを理解させ命を育む学習を展開する。	A		

農業	と同時に、専門的な知識と技術の習得を推進する。	資格取得を推進する。（各種技能検定試験・講習会の受講等）	A	B	参加したが、この流れを続けていきたい。 ・地域に開かれた学校、農業教育理解のためその方策について具体的に検討したい。 ・学校間連携、異校種間交流についても特別支援学校を主に更に検討していきたい。 ・安全安心な実習に向け設備・機械更新など農場設備全体について計画していきたい。 ・環境負荷軽減など時代が求める農業についても推進していきたい。 ・職員の能力向上に向けて方策を検討したい。
		社会人講師等を積極的に活用し、技術の向上を図る。	A		
		整理整頓および安全確保を徹底する。（実習時の実習服・ヘルメット着用の徹底）	A		
		上級学校や農業関連施設の訪問を通して、キャリア教育を推進する。	A		
	農業クラブ連盟の活動を推進する。	生徒主体の運営を支援し、「科学性」「社会性」「指導性」の育成を行う。	A		
		FFJ 検定試験の受験を積極的に支援する。	B		
		プロジェクト発表・意見発表に向けて、継続的に研究活動を支援する。	B		
	上級学校への進学を支援する。	早期からの個別指導を充実させて、四年制大学等への進学を支援する。	B		
	地域に開かれた農場を目指す。	様々な行事をとおして、地域との交流を深める。	B		
		地域や異校種間の交流（近隣市町村施設、特別支援学校、幼稚園等）を推進する。	A		
	施設設備を整備し、安全かつ適正に運用する。	生徒が安心して授業が受けられるように、農業施設の維持管理（更新・修繕）を行う。	B		
		環境に配慮した実習を行う。環境負荷の軽減に配慮した圃場運営を行う。	A		
		農薬の管理を確実に行う。 （購入・保管・廃棄・保管庫の施錠・保管庫の鍵の管理・記録簿への記入）	A		
		備品や農機具の管理を確実に行う。（保管・整備・購入・廃棄）	A		
		消毒・施肥・剪定・収穫を適期に実施し、梨園・温室等を良好な状態に保つ。	A		
		有機 JAS 規格に適合するように葡萄園の管理を行う。	A		
	職員研修の充実を図る。	生産管理を適切に行う。	A		
		積極的に研修を行い、指導力・技術の向上を目指す。	B		
園芸	基本的な知識や技術の習得のために、魅力的な授業を実践する。	栽培作物を精選しプロジェクトの充実を図る。	A	A	・栽培を通して、さまざまな学びを得て、農業への関心も高まっている。資格取得ではビジネス文書実務検定で2年生が3級取得100%を達成。来年度はカリキュラムが変わるため、1級合格者を目指す。漢検・英検の受験者は今後に期待したい。
		栽培をとおし命の大切さを学び、基本的知識を習得し農業への関心を高める。	A		
	資格取得を推進する。	日本農業技術検定試験 3級取得100%（卒業時）を目指す。	B		
		ビジネス実務検定3級取得100%（卒業時）を目指す。	B		
	専攻ごとに魅力ある授業を展開する。	漢字検定2級・実用英語技能検定3級以上取得（卒業時）を目指す。	C		
		多くの品種を導入することにより基礎的栽培技術を学び野菜栽培への興味・関心を高める。（露地野菜）	A		
		施設栽培により高度な技術を学び、今後の栽培学習の向上を図る。（施設野菜）	A		
		自然に優しい果樹栽培の実践により県 GAP、有機 JAS への理解を深める。（果樹）	A		
	基本的な知識や技術の習得のために、魅力的な授業を実践する。	社会人講師を活用し、最新の技術を習得し草花への関心を高める。	B	B	・資格取得の実技科目では、取り組む時間を増やしたこともあり、3級の合格率も向上してきている。今年度は2級の合格者も出たが、
		フラワーアレンジメント検定 3級取得100%（卒業時）を目指す。（草花）			
	資格取得を推進する。	設計を具体化する実習を通して作庭の喜びを感じ、環境緑化や造園土木への関心を高める。	B		
		校内外の教材を積極的に実験実習指導に取り入れ、プロジェクト学習の充実を図る。	B		
		社会人講師やマイスター制度を積極的に活用し、基礎的な造園技術の向上を図る。	A		

造園		マイスター派遣事業による実技指導を受け、基礎から応用まで幅広い技術を身につける。	A	5名以上を目標とする。 ・個性も大切にし、多様性を身に付けさせたい。また応用できる力を付けさせたい。 ・考えて行動できるよう授業展開の工夫をしていく。
	施設・教材の管理を適切に行う。	各圃場の整備や機械の点検・整備、道具や農具の安全管理に努める。	A	
		樹木見本園の剪定等を定期的 to 実施し、生きた教材として有効活用する。	A	
	専攻ごとに魅力ある授業を展開する。	多種多様な造園材料の特性や性質を学び、美的かつ機能的な材料の選択、使用方法を身につける。（材料）	B	
		造園技術理論や施工・管理実習を通して、利用する人や目的を考えた園を造る。（施工）	B	
		製図やC A Dの基本操作を習得し、人と自然が共生する環境を設計する。（計画）	B	
1 学年	高校生としての自覚および基本的生活習慣の確立を図る。	学校生活のあらゆる場面を活用して、高校生としての自覚を促すとともに、挨拶・身だしなみ・清掃の指導を徹底する。	B	B ・将来の社会生活につながる基本的生活習慣や規律意識の定着を図る。 ・総合的探求の時間の計画的な実施の検討。 ・修学旅行等の充実した学校行事の実施など豊かな人間性の育成を図る。 ・授業を重視した生徒一人一人の学力向上を図る。 ・進路決定のための個々に応じた支援を図る。
		遅刻カードを活用して基本的生活習慣の確立を図るとともに、規範意識を養成する。	B	
		家庭との連携および情報共有を図り、問題行動等の未然防止に努める。	A	
		個別面談を実施し、生徒理解に努める。	A	
		「道徳」やH R活動を通して社会性や豊かな心の育成に努める。	A	
		学年内・教科内での連絡を密に取って情報を共有し、生徒の指導に活かす。	A	
	自主的に学習に取り組む態度の育成および進路意識を高める。	タブレットや学習記録表を活用し、自己管理能力の育成を図る。	B	
		進路指導部と連携し、職業ガイダンスなどを通して進路情報の収集を図るとともに、キャリア意識を高揚し、将来に対する目標を持たせる。	A	
		授業展開、自宅学習課題、小テスト等を工夫して家庭学習の習慣化を図る。	B	
		部活動、学校行事への積極的な参加を促し、生徒の向上心や達成感を促進する。	B	
		平常課外や長期休業中課外等を実施し、学力向上を図る。	A	
2 学年	規律ある生活習慣を定着させる。規範意識を高め、自分のみならず他者を尊重する態度を育てる。	家庭との連携および情報共有を図り、問題行動等の未然防止に努める。	A	B ・進路決定に向けた取り組みを図る。 ・新規カリキュラムの内容を検討する。 ・推薦希望者規定の確認。 ・成人者としての自立支援を図る。 ・資格取得、学力向上意欲低下者に向けた対策。 ・後期特別編成実施内容についての検討 ・模擬試験の実施回数、使用問題の精査。 ・各教科からの予算請求、承認方法についての検討
		個別面談を実施し、生徒理解に努めるとともに適切な指導援助を行う。	A	
		服装や頭髪等の身だしなみ指導を徹底し、あいさつを励行させる。	B	
		修学旅行等の学校行事を通じて望ましい集団づくりに努める。	A	
		「道徳プラス」の授業やホームルーム活動等を通して、豊かな人間性の育成に努める。	B	
	主体的に学習に取り組む態度を育て、着実な学力の向上を図る。	生徒が落ち着いて授業に取り組める環境作りに努める。	A	
		授業展開の工夫と家庭学習の習慣化を図り、日々の授業に積極的に参加する態度を育成することによって、進んで学力の向上に取り組む姿勢を持たせる。	B	
		学年内・教科内での連絡を密に取って情報を共有し、生徒の指導に活かす。	A	
	常に進路への意識を持たせ、進路先を明確にさせる。進路決定のための個々に応じた具体的支援を行う。	キャリアデザイン力を育成し、自分の適性と将来について考えさせ、進路実現を支援する。	A	
		スタディサポートや模擬試験を活用し、学力の把握と学習に対する意識の向上を図る。	A	
		進路指導部と連携し、生徒の具体的思考や行動を促す進路情報を発信する。	B	
		平常課外や長期休業中課外等に積極的に参加させ、学力を向上させる。	A	
		面談を通して生活状況や学習状況を把握し、自己実現の支援を行う。	A	

3 学年	基本的な生活習慣の確立と規範意識の定着を図る。	欠席・遅刻・早退等について、家庭との連絡を密にし、連携を図る。	A	B	・理系 2 クラスについての検討。 ・学年費の未納者への対応。 ・進路未定者への働きかけ。 ・進路決定者の卒業までの取り組みへの働きかけ。 ・専門職大学合格者の扱いについての検討。 ・専門学校希望者の増加、総合型選抜の受験希望者の増加により、学力向上への意識低下が見られることへの対策。
		個別面談を実施し、生徒理解や学習状況の把握に努めるとともに、適切な指導援助を行う。	A		
		社会性を意識させ、服装や頭髪等の身だしなみの指導を徹底し、あいさつを励行させる。	B		
		学校行事やホームルーム活動および部活動等を通して、豊かな人間性の育成に努める。	B		
	主体的な学習態度の育成および確実な学力の向上を図る。	生徒が落ち着いて学習に集中できる環境作りに努める。	A		
		予習・復習を励行し、授業を工夫して主体的に授業に取り組ませる。	B		
		課題を工夫するなど、家庭学習の習慣化を図り、進んで学力の向上に取り組む姿勢を持たせる。	B		
		学年団および教科内での連絡を密にし、情報を共有することによって指導に活かす。	A		
	進路指導の充実および進路希望の実現を目指す。	各種ガイダンスを実施するなどキャリアデザイン力を育成し、自分の意志で進路を実現させる意識を持たせる。	A		
		スタディサポートや模擬試験を活用し、学習に対する意識を向上させる。	B		
		進路指導部と連携して組織的・計画的な指導を推進し、生徒の積極的思考や行動を引き出す。	B		
		平常課外や長期休業中課外等に積極的に参加させ、学力を向上させる。	A		
		面談を通して生活状況と学習状況を把握し、自己実現のための支援を行う。	A		

※ 評価基準： A 十分達成できている。 B 達成できている。 C 概ね達成できている。 D 余り達成できていない。 E 達成できていない。